

2018年10月30日

国立研究開発法人 理化学研究所への史料等寄贈について

この度、当社の所有する日満マグネシウム株式会社、理研金属株式会社の史料等を国立研究開発法人 理化学研究所（理事長 松本 紘）に寄贈することとし、2018年10月30日に当社にて贈呈式を開催しました。

記

1. 寄贈した史料等の概要

(1) 史料

- ①日満マグネシウム（株） 創立関係書類（昭和8年10月）
同 設立書類（昭和9年7月）
- ②日満マグネシウム（株）、理研金属（株）
 - ・重役会決議録（昭和8年10月（創立）～昭和26年11月（116回））
 - ・株主総会決議録（昭和9年～昭和26年11月）
- ③登記簿謄本（昭和9年～）
※日満マグネシウム（株）設立～理研金属（株）～第二会社宇部化学工業（株）設立
- ④社内報（昭和13年1月～4月／日満マグネシウム（株））
社内報（昭和13年5月～昭和14年11月／理研金属（株））
- ⑤管理令書（昭和18年／商工大臣 東條英機 発行）
- ⑥文献 和久利 保（取締役）著「金属マグネシウムからマグネシアクリンカーへ
生産転換の道程」昭和59年
- ⑦その他当時の写真類

(2) 製品

- ①日満マグネシウム（株） 金属マグネシウムインゴット（初作）
同（直江津工場製）
同（理研金属（株）製）

(3) 絵画

- ①少女像の油絵 大河内信敬氏（大河内所長の次男で画家）が描いた絵画

2. 経緯及び理由

当社の合併前会社「宇部化学工業（株）（昭和24年9月8日設立）」の前身である「日満マグネシウム（株）」は昭和8年、金属マグネシウムの製造を目的として、満州鉄道、理化学興業（理化学研究所の産業団の一つ）、扶桑金属（住友金属工業（株））。現、新日鉄住金（株）等の出資により設立され、宇部市の工場で昭和10年より製造を開始しました。

その後、昭和13年に満鉄が事業から撤退、「理研金属（株）」と商号変更、理化学研究所第3代所長 大河内正敏博士の尽力により、理研コンツェルン（後の理研産業団）の一つとして日本の発展に貢献してきました。

戦後、金属マグネシウムの需要が低迷する一方で、マグネシアクリンカー（耐火物原料）の国内生産の必要性が高まり、海水からマグネシウムを抽出しマグネシアクリンカーを製造する技法を開発、昭和24年に第二会社として「宇部化学工業（株）」が設立されました。昭和26年、宇部興産（株）が宇部化学工業（株）に出資、理研金属（株）を吸収合併し、宇部興産（株）の傘下に入りました。

当社は創立以来の史料等を長く大切に保管してきましたが、我が国の産業史の貴重な一部と考えられるこれらの史料等を、当時の経営母体であった理化学研究所に寄贈し、活用して頂くことが社会貢献に繋がると判断し寄贈を申し入れましたところ、快く引き受けを頂いたものです。これらの史料等については同所にて展示して頂くことになっており、数多くの見学者の目に触れることを期待しています。

<寄贈した史料の写真>



日満マグネシウム（株）創立関係書類
及び理研金属（株）重役会決議録



日満マグネシウム（株）金属マグネシウムインゴットの初作（写真奥）、直江津工場製（写真中央）及び理研金属（株）製（写真手前）



少女像の油絵



日満マグネシウム（株）及び理研金属（株）の社報
以上